

防 災 だ よ り

No. 3

6月5日(水)は、突然、の大雨が降り、雷が鳴り続けました。学校は、部活終了後、雷が落ち着くまでコモンホールで待機し、保護者の方々へ引き渡しました。今後もそのような災害があるかもしれません。そのような「もしも」のときのために、今回は竜巻・雷・急な大雨の避難方法についての確認をしたいと思います。

積乱雲が近づくと、竜巻や雷が発生したり、急に大雨が降ったりします。

<その1> 竜巻が発生した場合の避難方法(※ Jアラート時も同様です)

- 屋外にいる場合
 - (1) 頑丈な建物や地下に避難する。
 - (2) 頑丈な建物がない場合、物陰に身を隠したり、側溝や水路に入ったりして頭部を守る。
- 屋内にいる場合
 - (1) 窓のない最下層の部屋へ移動する。
 - (2) 窓とカーテンを閉め、窓から離れて頭部を守る。

POINT!

3歳以上は「ダンゴムシ」のポーズがとれるように。



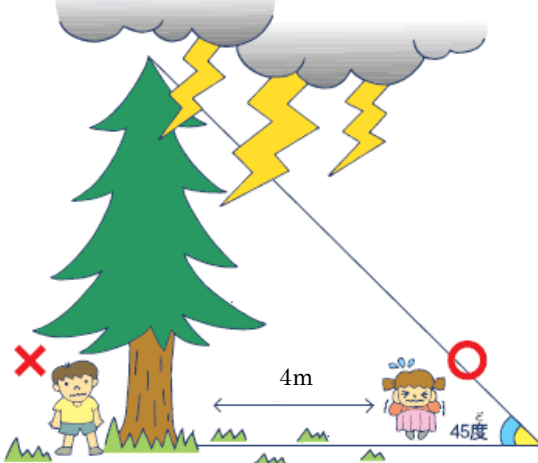
POINT!

こんな姿勢で子どもを守ろう!



※2歳くらいまでの小さな子どもは、おしりを抱えてしっかり守ります。

<その2> 雷が鳴った場合の避難方法



- 屋内に逃げ込み、すべての電気器具、天井・壁から1m以上離れる。 ※ 屋内にいるのが一番安全です。
 - 屋内に逃げ込めない場合は、電柱、煙突、鉄塔、高い建物などの高い建物などのてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、4m以上離れた場所へ移動する。
- ※ 地面に電気が流れる場合もあるので、手や膝、おしりなどは地面に付けない。

<その3> 急な大雨が降った場合の避難方法

急な大雨が降ると、小さな川では30分もたたないうちに数十センチから1mほども川の水位が上がることがあります。そのような時は、川の流れも速くなるので、膝がつかるくらいの川の深さでも人が流されてしまいます。

- 雨雲が近づいてきたら、すぐに水辺から離れる。
- 橋の下での雨宿りは絶対にしない。
- 地下やアンダーパスから離れ、水につかった道路も歩かないようにする。



災害は「まさか」ではなく、「いつか」は起きるものです。しかし、人は「たぶん自分は大丈夫」と都合良く考えてしまう傾向にあります。日頃から油断せず、危険なサインに気づいたら、早めに安全な場所へ逃げましょう。